

北海道で行われるジオパーク全国大会ということで、応援の意味も自分自身の勉強の意味もあって参加した。また初めてポスターを制作しポスター発表に挑戦した。

### 開会式

地元の学校の生徒さん達による太鼓の演奏で始まった。やはりこうした地元の子供達や生徒達が参加して大会に活気を与えてくれるのは良いことだと感じる。参加者が首に掛けるプレートにも子供達からのメッセージが入っており温かみを感じた。

開会式は手話通訳ではなく、横にある大きなスクリーンに話した言葉がすぐに映しだされるという仕組みだった。迅速ではあるがその分間違いも多く誤変換も多かった。進んだ技術に驚いたり、思いもかけない誤変換を楽しんだりしながら、ジオパーク全国大会らしいくつろいだ和気あいあいとした雰囲気が会場を満たしていく感覚がする。あちこちで「久しぶり！」「お元気ですか？」といった心のこもった挨拶が交わされておりまたここに帰ってくることができた、という感覚になった。



基調講演は「未来創造から未来へ これからの地球と私たち」と題して佐治先生のお話を聞いた。ジオパーク全国大会といえば、やはり地学関係の内容のことが多く、天体や宇宙についての内容とは！と驚いた。しかしこのお話を聞くだけにでも来るかいがあったと強く思える内容だった。この先生の他の誰にも聞くことのできない精神性も含め素晴らしい内容だった。

この美しい星、地球の上で繰り返される戦争のなんとばかげていることか。この星を大切に、子や孫たちにいや、もっと先の子孫たちにちゃんと自然観、成熟した倫理観、戦争はだめだ、ということのできる世の中を守っていかなくてはならないと強く感じた。

また佐治先生がおられる天文台にぜひうかがってみたいと感じた。

### 分科会

分科会5の「全国のジオパークで取り組んでいる防災活動～全国のジオパークで実践する自然災害関連プログラムの共有～」に参加した。おりしも我が洞爺湖有珠火山マイスターネットワークで行っているクラウドファンディングについて、数人の方が三松三朗さんの活躍に触れながら紹介してくれた。

これまで名前だけは知っているが、実際おあいしてはいなかった人や、久しぶりにお会いできる人など、まるで同窓会のように言葉を交わし、交流することができた。

印象深く、また心にひつかかったのは「災害の後、生き証人のように報道されて語り部となつたが、メディア疲れともいえるような状況となり、今は表には出ずそつとしておいてほしいと言われている」といった生存者への取材や扱いの難しさだった。はつとした。

われわれマイスターも、使い勝手よく使われるのはよい。が、その分行政の側も大切に扱ってはくれないものか、とも感じた。例えば、われわれが長年にわたり、本拠地がなくどこにも資料を保存したりできずにいること。郵便物が届くところでありマイスターが集う場所を求めていた、ということに対し、本気で力になろうとしてくれる様子がない、ということを実は静かに不満に感じている。



### 口頭発表

我が洞爺湖有珠山ジオパークの専門員金田さんの活躍が素晴らしかった。

教科書を調べ、ジオパークがどのように教科書に登場しているかを発表されていた。多くの人が詰めかけており関心の高さを感じた。

伊達市の開来高校の学生の発表にも多くの人が聞きにきており、立派に調査の内容を述べていた。

こうして学生が活躍するのはとても良いことで、普段から地元の学校と、こうした全国大会での発表の機会を目指しての取り組みを重ねてはどうだろう。

### ポスター発表

私にとっては未知の領域で、けして足を踏み入れることはないとと思っていたポスター制作と発表だったが今回は「満点地震計」の取り組みをぜひ広く知ってほしいという気持ちとなり、制作を決心した。

コアタイムにはわりと沢山のひとが聞きにきてくれた。中田節也先生もきてくれて「満点地震計の名前は何度も聞いたことがあったが、そういうことだったのか」とおっしゃっていた。

他の火山を抱えるジオパークの人からは質問が相次いだ。我々もこんなふうに自分たちの手で地震観測をしたいと熱意をもって質問してくれた。

私の他にもポスター制作をして今大会に臨んだメンバーがおり、意識の高さに驚いた。特にユニバーサルデザインについて取り組んでいる佐々木さんのポスターは多くの人が足をとめていた。どこのジオパークでもきちんと取り組みたいと感じている。

### 閉会式

まとめのパネルディスカッションでは意義深い討論が実現したと思う。ジオパークの活動が自然との付き合

い方や災害への備えの良き支えとなればよいと強く感じた。

次回の開催地からは多くの参加者が来ていた。

同室に宿泊していた人も桜島からの参加者であった。

非常に大きな熱意とやる気を感じた。同じ火山を抱える地での全国大会とあって、我々も興味津々で次回の全国大会に臨みたい。

